高松アーティスト・イン・レジデンス2026　　入場無料 / 会期中無休

小宮太郎 成果発表展「波を、カーテンに」

本展では、男木島・女木島で開催したワークショップ「窓の景色を交換する」の成果物と、大島・男木島・女木島を中心にリサーチし、窓とカーテンをモチーフに高松で滞在制作した新作インスタレーションを、市内のギャラリー Syndicateにて展示します。
また会期中には enne gallery にてワークショップ「窓の景色を交換する」を開催します。

Statement

海に囲まれた瀬戸内の島々は、島と島が互いに見えるほど近くにありながら、それぞれに異なる時間と暮らし、そして文化を抱えている。海は古くから人や物、文化が行き交う道であると同時に、波は場所や時間を隔てる。

「高松市」に属するこの三つの島も、それぞれの文化と歴史の中で、違うものを見て、また違う場所から同じものも見ている。女木島から大島と男木島を、男木島から女木島と大島を、大島から女木島、男木島が並ぶ姿が見える。また、それらの島からは、四国本島の高松市内の灯を望むことができる。船に乗り、その島に入っていく時、さっきまで波越しにあった島のシルエットは、カーテンを開けた瞬間のように、確かな存在として立ち現れる。

カーテンという言葉は、ラテン語で「囲い、中庭」を意味する語にさかのぼるとされている。「囲われた場所」に、布を垂らして内と外を分け、ひとつの場所をかたちづくる。私たちは日常で、その囲いのカーテンを閉める、もしくは開いていく。

波をカーテンに見立てる。それは、島を囲う海を、開くことのできる一枚の布として見直すことである。揺れるひだは、今ある自分の世界を包んでいる。その隙間を縫って外の景色に触れる。



垂直で水平な風景（を撮る）/ 2017 年制作

作家プロフィール

小宮太郎 | 1985 年神奈川県川崎市生まれ。現在は滋賀県大津市在住。2016 年京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻（博士）修了。さまざまな形での残像のあり方を作品化しようと試みています。

Tak AiR

「高松アーティスト・イン・レジデンス」は、アーティストが高松市に一定期間滞在し、高松の歴史や文化、自然、産業など高松ならではの地域資源を活用しながら、地域とのつながりの中で作品制作を行うアーティストの支援事業として2015年に開始され、これまで20組のアーティストたちが参加してきました。

詳細はこちら（高松市HP）

主催・お問い合わせ先：高松市文化芸術振興課
高松市番町一丁目8番15号
TEL: 087-839-2636　FAX: 087-839-2659
メール: bunka@city.takamatsu.lg.jp

成果発表展「波を、カーテンに」

2026年12月18日（金）－12月27日（日）
13:00－19:00

トークイベント

小宮の作品を見続けてきた人、大島の内側を知る人。
二人のゲストと小宮太郎が対談します。

12月20日（日）14:00－
ゲスト 渡辺 亜由美
広島市現代美術館 学芸員

12月26日（土）16:00－
ゲスト 都谷 禎子
国立療養所大島青松園・社会交流会館 学芸員

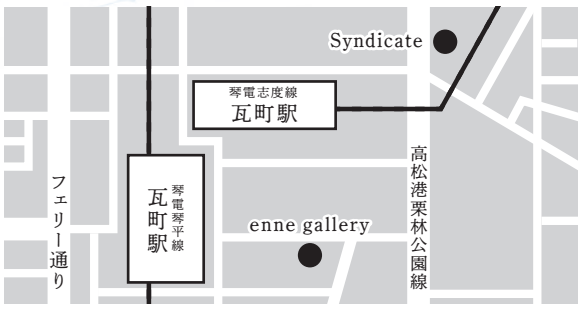
会場
Syndicate
高松市塩屋町9-9 渡辺ビル 2F西

ワークショップ「窓の景色を交換する」

男木島・女木島でも開催したワークショップを、
会期中も実施します。

12月19日（土）参加無料・予約不要
① 13:00－ / ② 15:00－

会場
enne gallery
高松市塩上町1-2-7 ミユキビル 5階 an atelier





高松アーティスト・イン・レジデンス2026

小宮太郎 成果発表展
「波を、カーテンに」

2026年12月18日（土）– 12月27日（日）